|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| ユースケース名 | | 仮想マシンをバックアップ／復元する |
| 目的（ゴール） | | 利用者が仮想マシンの状態を保存（バックアップ）し、必要に応じて任意のバックアップから状態を復元できるようにする。 |
| アクター | | 利用者 |
| 開始条件（起動トリガー) | | 利用者が仮想マシンのバックアップまたは復元操作を選択する。 |
| 事前条件 | | バックアップを行う場合：仮想マシンが存在し、稼働中または停止中であること。  復元を行う場合：対象のバックアップデータが存在していること。 |
| 事後条件 | | バックアップの場合：指定された仮想マシンのスナップショットが保存される。  復元の場合：仮想マシンが指定されたバックアップ状態に戻される。 |
| 拡張点 | |  |
| 関連ユースケース | |  |
| イベントフロ｜ | メインフロー | 1.利用者が仮想マシン一覧からバックアップ対象の仮想マシンを選択する。  2.バックアップ作成」オプションを選択する。  3.バックアップ名や説明、保存場所などのオプションを入力する。  4.システムがバックアップ処理を実行し、仮想マシンの状態を保存する。  5.成功メッセージが表示され、バックアップ一覧に保存内容が表示される。 |
| 代替フロー | 1.利用者がバックアップ一覧から復元したいバックアップを選択する。  2.「復元」オプションを選択する。  3.復元先として既存の仮想マシンに上書き、または新規仮想マシンとして作成するかを選択する。  4.システムが復元処理を行い、指定された状態の仮想マシンを構築する。  5.復元結果が利用者に通知される。 |
| 例外フロー |  |
| 備考 | | 1バックアップデータは一定期間保持され、自動削除される設定が可能。  2.管理者がストレージ使用量を制限できる。  3.暗号化バックアップオプションが用意されている（必要に応じて設定） |